

ロジカル・シンキング（論理的思考）研修について

刻々と変わる複雑な状況から状況を得て、自分がすべきことを判断し実行していくハンドボールには、判断力・コミュニケーション能力等が重要な基盤となります。この根本的な部分が変わっていけば、戦術理解やコミュニケーション能力等、大きく日本の選手が変わっていくのではないかと考えています。

【ハンドボール選手として身につけてほしいこと】 ～自立した大人になるために論理的思考の観点から～

- ・自分で判断すること
- ・判断に必要な情報を得ること
- ・自分なりの根拠を持って判断し、その判断に自分で責任を持つこと
- ・自分の判断を人に伝えることができること
- ・判断に基づき積極的にトライすること
- ・目標を立て、それを達成するために過程を自分なりにデザインできること

これら課題は、根本的な部分が形成される若い年代から長期的アプローチとして考えていく必要があります。ジュニア世代・ユース世代の選手たちから、考えることの習慣づけ、自分の意見を言い合う習慣づけをしていきたいと考えています。

【プログラム】 *例えばアカデミーでプログラムとして導入する場合（案）

- ・第1回・・・問答ゲーム（論理的思考の基礎編）
- ・第2回・・・4コマ漫画を作る（論理的思考の構造）
- ・第3回・・・説明の仕方（自分の判断を人に伝える）
- ・第4回・・・描写・報告（正しい情報の獲得の仕方と人に伝える方法）
- ・第5回・・・視点を変える（多角的な視点の獲得）
- ・第6回・・・絵の分析（判断に必要な情報を得て、判断する）

【議論について】 議論の熟達は、議論をすることによって、次のような効果があります。

- ①自分の考えを組み立てて、意見が言えるようになる
 - ②根拠に基づく自分の考えを表現する習慣がつく
 - ③素早く考え、その考えを言語化することができる
 - ④自分と他人の考えが異なることを認識する
- ・日本の子どもたちにいきなり議論させようとする場合、議論自体が成立しない可能性があります。そこ

で、(基礎) 問答ゲーム・(発展) 議論・(実践) ディベートという組み立てで、少しずつ練習していく必要があります。

【第1回アカデミー】 (基礎) 問答ゲームを実施

(1) 話し方のルール

- ①結論を先に言うこと
- ②根拠を述べること
- ③主語・述語を明確に入れること
- ④単語で話をしないこと
- ⑤「うざい」「知らない」「わからない」「微妙」などの返答はしないこと
- ⑥自分の考えに責任を持つこと。「みんな」に責任転嫁しないこと
- ⑦問われたことを直接具体的に答えること。問われていないことに言及しない

(2) 質問する側のルール

- ①相手が答えを言っていないのに、代弁したり、納得したりしないこと
- ②相手の回答に対して、突っ込むこと (数回やりとりしたい)
 - ・ 5W1H (いつ、どこで、誰が、何が、なぜ、どのように)
- ③「みんなが・・・」と言ったら「みんな」の内容を確認すること

(3) (すごろく版) 問答ゲームの実施

今回の研修では、とにかくたくさん話をさせたいので「すごろく形式」で問答ゲームを実施します。今回一番大切にしたいのは、(1) の話し方の基本です。最初は形づけられて気持ち悪い感じがしますが、自分の考えを整理することや大人の話のポイントを掴むためにも、日常、練習のときなども徹底させたいところです。(小学校では実践している学校もあるようです)

(時間配分案)

| 時間 | 内容 | 備考 |
|-----|--------------------------|------------------|
| 10分 | ロジカル・シンキングとは? 日本代表の課題 | 簡単な説明 |
| 20分 | ロジカル・シンキングの基本 | 練習:「どちらが好きですか?」 |
| 20分 | すごろく版「問答ゲーム」 | 話し方の基本を使って質問に答える |
| | まとめ | |